

# 問題の核心は何か 討論シリーズ NO 2

われわれが、現在展開している千葉地本支部防衛闘争の核心点は以下の通りである。

第一に千葉地本一四〇〇組合員の血と汗でたたかいた数々の成果と教訓を守る闘いである。

つまり、滝口君への首切り攻撃撤回、マル生闘争勝利、船橋事故を契機とした反合・運転保安闘争の苦闘のうえにかくとくした「全国有数」の労働条件と職場の諸権利・慣行を守り発展させる闘いである。

第二に三里塚・ジェット闘争貫徹をもって「政府・空港公団の尖兵になることを拒否し、三里塚農民を裏切らない」という、闘いの実践をおとした労働者の生きざまと、労農連帯を守りさらに継承・発展させ、八〇年代労働運動の進路をさし示す闘いである。

第三に動労のなかにあって、反動的暴力支配とセクト的ひきまわしを許さず、真の組合民主主義を確立する闘いなのである。

## 千葉地本破壊を意図した 全国青年部のオルグは許さない！

いま動労内一部反動分子は、千葉地本一四〇〇組合員の団結に圧倒され、自らの不正義を暴露されるのを恐れるがゆえに、ウソとベテンでごまかし千葉地本破壊を「正当化」するため必死になって策動している。「千葉問題」の本質的解決のために」と称し、千葉地本破壊のための「オルグ団」編成の「学習活動」を行っている。

その「学習」内容をたると、「千葉はストライキもつてない」「千葉の組合員は全国最低の労働条件で苦しんでいる」「一部指導部によって千葉はひきまわされ、中核派を支持するか否かと組合員はウツ喝されてゐる」として、だから、「九年余の千葉問題」を解決し千葉の「真面目」な組合員を助けてやらなければならない等とデマをもって「教育」をしているのだ。

われわれは、こうしたデマとベテンをもって真実を塗り隠す卑劣な策動を粉碎し、彼らのいう、いわゆる「九年余の千葉問題」・七〇年二月二四日「水上問題」を発端にした、歴史的事実をここに明らかにし、千葉地本の闘いの正義性を確信し、一四〇〇名の団結と闘争力の糧にされんことを要請する。

『青年部問題』の発端はこうだ☆

「デマとベテンで、オルグ団をつくって、三手タクの一部反動分子たち」

## 70・2/24 「水上」での 集団リンチはこうして起された！

水上で開催された「関東ブロック決起集会」の課題は、当時、敗北したとはいえ、七波に亘って闘われた機関助手廃止反対闘争と六九年の反戦・反安保闘争を総括し、七〇年安保闘争が、沖繩・三里塚の闘いを両輪に激動が開始するなかにおいて国鉄労働者の任務を明確にさせるものとしてあった。千葉地青の闘いは、機関助手廃止反対闘争の歴史的火蓋をきった。関東管区公安機動隊の弾圧体制下の六七年十二・一五闘争を新小岩、蘇我、佐倉三拠点で全国の最先頭にたって闘い抜き、さらに反戦・反安保闘争を反戦青年委員会運動の要となつて断固として闘い抜いてきたのである。こうした闘いの前進に恐怖した関東青年部一部反動分子等は千葉地青の闘いを暴力的に圧殺し、破壊せんとして一大暴挙に打ってでてきたのである。彼等は、第一日目、集会に参加した滝口君(当時国鉄当局による解雇攻撃を受けていた)に対し「処分された滝口には発言を認めない」と事実上集会から締め出すという当局の処分攻撃を容認する反動的態度をとつたのである。

集会二日目安保・沖繩・三里塚闘争の展開をめぐる討論では、一部反動分子は「千葉は破産した」等と千葉地青参加者に対し口きたなくのしり、大江議長は千葉の発言を一方的に停止したのである。こうした横暴な行為に注意を与えようとした千葉地青参加者に、東京地青の数十名が一齐に襲いかかり、とり囲み、他地青から見えないようにして殴る蹴るの集団リンチを下半身をめぐり、あらんかぎりにつくしたのである。こうしたリンチに屈せず抗議した千葉地青参加者に対し一部反動分子は、「千葉が先に手をだした。集会破壊だ」等とベテンをもって集団リンチをゴマカン居なおつたのである。

ことここにおいて、千葉地青参加者の勘忍袋の緒は切れ「官僚的、反動的暴力行為」を糾弾し、やむにやまれぬ手段として退場したのである。これが「水上問題」の真実であり、この日を契機に意見の対立を認めず暴力テロリンチをもって批判を圧殺し組合機関、動員に参加する度に千葉地青地本に対する暴力テロリンチのエスカレートが開始されたのである。

# 千葉地本破壊目的の『青年部オルグ』を許すな！

**1.27 地本青年行隊総決起集會**

俺たちの職場は俺たちの力で守る

総力で津田沼電車区へ！

1月27日(金) 14時